13課

9月24日

試練の中のキリスト

安息日午後	9月17日

暗唱聖句

そして三時ごろに、イエスは大声で叫んで、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と言われた。それは「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。（マタイ 27：46、口語訳）

三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。（マタイ 27：46、新共同訳）

今週の聖句

ルカ 2：7、22～24、マタイ 2：1～18、ヨハネ 8：58、59、ルカ 22：41～44、マタイ 27：51、52、ローマ 6：23、テトス 1：2

今週のテーマ

私たちが苦しみについて考えるとき、そもそも罪や苦しみは、どのようにして起こったのかという疑問が湧いてきます。天の啓示を通して私たちは良い答えを持っています。すなわち、罪と苦しみは、自由な存在が、神が彼らに与えられた自由を誤用したことによって起きたのでした。この答えはさらにもう一つの問いを導きます。すなわち、神はこの存在が堕落することを前もって知っておられたのかという問いです。答えは「イエス」です。しかし神は、C・S・ルイスが書いたように、それを「リスク（危険）を負うに値する」とお考えになったのです。

だれに対するリスクでしょうか。神は天の御座に着いたままで、私たちのためにそのリスクを負われるのでしょうか。この答えは正確ではありません。すべての知的被造物の自由はあまりに神聖なものであったので、神は私たちの自由を否定することよりも、私たちが自由を誤用したために生じた苦しみの矢面に立ち、自らお受けになることを選ばれたのです。そして私たちはこの苦しみをイエスの生と死の中に見るのです。主は、私たちの肉の苦しみを通して永遠に続く天と地の絆を創造されたのです。

今週のポイント

キリストは私たちのためにどのような苦しみを負われたのでしょうか。主の苦しみから私たちは何を学ぶことができるでしょうか。

日曜日　9月18日　幼少時代

聖書はイエスの幼少時代の情報をほとんど残していません。しかしながら、数節から、救い主がお生まれになった当時の世界の状態についてある程度知ることができます。

問1　ルカ2：7、22～24（レビ記12：6～8参照）とマタイ2：1～18を読んでください。これらの聖句は、イエスが人生の初めに直面されたどのような状況を示していますか。

もちろん、人類史初期の時代から見て、イエスが貧しく生まれたり、命を狙われたりした最初の人であったわけではありません。しかしながら、キリストがその生涯の初期から経験された苦しみのユニークさを理解する助けになるもう一つの要素があります。

問2　ヨハネ1：46を読んでください。少年期のイエスが直面された苦しみを知るためのもう一つの要素は何ですか。

堕落前のアダムとエバを除いて、イエスはただ1人、地上に生きた罪のない人でした。主はその純潔、罪なき潔白さを持って、罪の世に沈められたのです。子どもであっても、彼の純粋な魂にとって、絶えず罪に触れ続けるということは、どれほどの苦痛だったことでしょう。罪によって無感覚になった私たちでさえ、しばしば嫌悪感を抱かせるような罪や悪にさらされる世界から逃げ出したいような気になります。純粋な魂を持ち、罪による1点のしみもないお方であるキリストにとって、その苦しみはどれほどのものであったか想像してみてください。この点について、彼と彼を取り巻く周囲の者たちとの身を切るような違いを考えてみてください。それは彼にとって耐えがたいものであったことでしょう。

あなたは罪に対して敏感ですか、罪と闘っていますか、それとも罪に無感覚になっていますか。もし無感覚になっているなら、それはあなたが読むもの、見るもの、行うことが影響していると言えないでしょうか。

月曜日　9月19日　軽蔑され、拒絶される

問3　イエスは、天の神、天地の創造主でありながら全世界の罪のための供え物ししてご自身を献げるためにおいでになったことを覚えながら次の聖句を読んでください（マタ12：22～24、ルカ4：21～30、ヨハ8：58、59）。これらの聖句は、主が地上で受けた苦しみを理解するためにどのような助けとなりますか。

指導者であれ庶民であれ、イエスの生涯、行動、そしてその教えは常に誤解され、彼が救うために来られた人類によって拒まれ、憎まれたのでした。ある意味、それは、助けを必要としながら言うことを聞かない子どもを持つ親のようです。親は子どものために喜んで何でも与えたいのですが、子どもは親を足蹴にし、嘲笑し、おそらくその子どもを完全な破滅から救うことのできる唯一の人を拒みます。イエスが地上生涯で経験されたのはそういうことでした。主にとってそれは、どれほど苦痛に満ちた経験だったことでしょう。

問4　マタイ23：37を読んでください。キリストはその拒絶をどのように感じられたのでしょうか。この嘆きは、人が通常抱くような悪感情からでしょうか、それとも別の理由からでしょうか。別だとすればどのような理由でしょうか。

私たちはだれも拒絶の痛みを知っています。そして私たちの痛みは、無我のキリストの痛みと似ているかもしれません。私たちが痛みを感じたのは、私たちが拒絶されたからではなく、私たちを拒んだ人のためです（それはもしかしたら、私たちが関心を寄せている人がキリストにある救いを拒むことによる痛みであるかもしれません）。彼らを救うためにご自分が直面しなければならないことを十分承知しておられ、また彼らの拒絶の結果がどのようなものであるかもよくご存じであったイエスにとって、その痛みがどのようなものであったかを想像してください。「キリストがサタンの攻撃を鋭く感じておられたのは、彼に罪がなかったためである」（『セレクテッド・メッセージ』第3巻129ページ、英文）。

拒絶される痛みと闘うために、キリストの模範はどのように助けとなりますか。その模範をあなたの生活の中にどのように適用できるでしょうか。

「彼らに言われた。『わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、目を覚ましていなさい』」（マコ14：34）。

イエスの33年の地上生涯に経験されたどの苦しみも、十字架の前の数時間前に始まった苦しみと比べられるものはなかったでしょう。世の罪のための供え物としてのイエスの犠牲は、永遠の昔に（エフェ1：1～4、2テモ1：8、9、テト1：1、2）計画され、そして今、そのすべてが実行されるのでした。

問5　以下の聖句はキリストのゲツセマネの苦しみについてどのように語っていますか（マタ26：39、マコ14：33～36、ルカ22：41～44）。

「キリストは、彼らからすこし離れたところ――そんなに遠くではなく、彼らが主を見たりその声を聞いたりできるほどのところ――へ行って、地面にひれふされた。キリストは、罪のためにご自分が天父から隔離されつつあることを感じられた。深淵は広く、暗く、深かったので、キリストの精神はその前でおののいた。この苦悩からのがれるために、キリストは、神としての力を働かせてはならないのである。人間として、キリストは、人の罪の結果をお受けにならねばならない。人間として、キリストは、罪とがに対する神の怒りに耐えたまわねばならない。

キリストはいま、これまでとちがった態度をとっておられた。主の苦難は、預言者ゼカリヤの言葉によって最もよくえがかれている。『万軍の主は言われる、「つるぎよ、立ち上がってわが牧者を攻めよ。わたしの次に立つ人を攻めよ」』（ゼカリヤ13：7）。罪深い人間の身代りまた保証人として、キリストは神の正義の下に苦難を受けておられた。主は、正義が何であるかがおわかりになった。これまでキリストは、他人のために執り成すお方であったが、いま主はご自分のために執り成してくれる者がほしいと望まれた」（『希望への光』1036、1037ページ、『各時代の希望』下巻176、177ページ）。

ゲツセマネでイエスの身に起きたことを想像してください。世の罪はすでに彼の上に落ちかかっていました。そのようなことがかつてあったか考えてみてください。これより前にも、これより後にも、このような試練を通るよう召された人間はだれ1人いませんでした。この出来事は神の愛について何を語りますか。この出来事はあなたにどのような希望を与えますか。

水曜日　9月21日　十字架に架けられた神

十字架刑による死は、ローマ人がだれにでも行った最も残酷な刑罰の一つでした。それは死をもたらすための最悪の方法であると考えられていました。私たちが常に覚えておかなければならないことは、このようにだれもが恐怖を覚える十字架刑による死が、とりわけ、私たち人間の肉体をとって来られた神の御子イエスにとって、どれほど恐ろしい忌まわしいものであったかということです。叩かれ、むち打たれ、彼の手と足に釘が打ち込まれました。さらに自分の体重でその傷口が裂ける痛みに苛(さいな)まれるその肉体的苦痛は、文字通り耐えがたいものであったに違いありません。この刑が最も重い犯罪者に対してでさえ非情な刑であったとすれば、すべてにおいて罪のないイエスがこのような運命に従わねばならないとはどれほど不当なことであったことでしょう。

しかし、ご存じのように、キリストの肉体の苦しみは、その時実際に起きていたことに比べればまだやさしいものでした。この出来事は単に無実の男を殺す以上のことだったのです。

問6　イエスの死の周囲で起きていたどのような出来事が、その場にいたほとんどの人々が考えもしないことが起きていたことを示していますか。そこで起きていた出来事一つひとつの中に、どのような意味が隠されていますか。

マタイ 27：45_____

マタイ 27：51、52_____

マルコ 15：38_____

無実の男の不当な死という出来事以上の何かが、明らかに起きていました。聖書によれば、罪、それも私たちの罪に対する神の怒りがイエスの上に注がれたのです。十字架上のイエスは、罪、それも全世界のすべての罪に対する義なる神の義憤を一身に受けられたのです。こうして、イエスは、人類のだれも知らず、経験したことのないより深く、暗く、そしてつらい苦しみをお受けになったのでした。

それが何であれ、あなたが苦しみや困難に直面し、闘うとき、キリストがあなたのために十字架でお受けになった苦しみの現実は、あなたにどのような希望と慰めを与えますか。

すでに慣れてしまったかもしれませんが、私たちもこの地上にいる限り、苦しみを経験します。それは堕落した被造物としての運命です。聖書には、この運命と異なることは何も約束されていません。

問7　これらの聖句は、間もなく起こらねばならないどのような出来事について告げていますか（使徒14：22、フィリ1：29、2テモ3：12）。

苦しみに遭うとき、私たちは二つのことを心に留める必要があります。

第一に、主キリストは、私たちが経験したどのような苦しみよりもつらい苦しみを経験されたということです。十字架で「彼が担ったのはわたしたちの病／彼が負ったのはわたしたちの痛みであった」（イザ53：4）のです。私たちがただ個人として知っていることは、彼は私たち人類すべてのために苦しまれたということです。罪のないお方が「わたしたちのために罪と」（2コリ5：21）され、罪深い被造物として苦しまれたのですから、それは想像さえできないことです。

しかし第二に、私たちが苦しむとき、キリストの苦しみの結果、すなわち、キリストが私たちのためにしてくださったことを通して、何が私たちに約束されているかを覚えておくべきです。

問8　ヨハネ10：28、ローマ6：23、テトス1：2、Ⅰヨハネ2：25を読んでください。私たちは何を約束されていますか。

この世での苦しみがどのようなものであっても、私たちには永遠の命が約束されています。それはイエスのお陰であり、イエスが私たちの罪の罰をその身に負ってくださったお陰であり、（信仰を通してイエスに完全に信頼できるという）福音の豊かな恵みのお陰なのです。キリストが成し遂げてくださったこと、その完全な生涯と犠牲のお陰で、痛み、失望、喪失に満ちた私たちの人生は一瞬にして過ぎ去り、それとは正反対の罪も苦しみも死もない新しい天と新しい地における永遠が、私たちには約束されています。これらすべてのものが私たちに約束され、確かなものとされたのは、ひとえにキリストと、彼が受けてくださった苦しみのゆえであり、こうして、まもなく来るべき日に、主は「自らの苦しみの実りを見／それを知って満足」（イザヤ5：11）されるのです。

金曜日　9月23日　さらなる研究

参考資料として、『各時代の希望』第74章「ゲッセマネ」、第78章「カルバリー」を読んでください。

「3度、イエスはその祈りを口にされた。3度、人性は最後にして最高の犠牲の前にひるんだ。しかしいま人類の歴史が世のあがない主の前に現れる。律法を犯した者たちは、放っておけば滅びなければならないことを、主はお知りになる。主は人類の無力をさとられる。主は罪の力をお知りになる。滅びる運命にある世のわざわいと嘆きが主の前に現れる。主は、世のさし迫った運命を見て決心される。ご自分がどんなに犠牲を払ってでも、主は人類を救おうとされる。滅びつつある幾百万の人がイエスを通して永遠の生命を受けられるように、イエスは血のバプテスマを受け入れられる。主が純潔と幸福と栄光に満ちた天の宮廷を去られたのは、失われた1匹の羊、罪とがによって堕落した1つの世界を救うためであった。だから主は、ご自分の使命から離れようとなさらない。イエスは、罪を犯した人類のためにあがないの供え物となられるのである。いまイエスの祈りには、『この杯を飲むほかに道がないのでしたら、どうか、みこころが行われますように』と、服従することだけが表明される（マタイ26：42）」（『希望への光』1039ページ、『各時代の希望』下巻182、183ページ）。

話し合いのための質問

❶ **人となったキリストにおいて、神ご自身が、人の経験したどのような苦しみよりも大きな苦しみを経験された事実は、苦しみにある私たちにとってどのような助けとなりますか。人のためのキリストの苦しみは、私たちにとって何を意味しますか。どのような慰めを与えますか。次のエレン・ホワイトの文章を読んで考えてみてください。「罪の結果であるすべての苦しみが、罪なき神の御子の胸に押し寄せた」（『セレクテッド・メッセージ』第3巻129ページ、英文）。**

❷ **今週学んだキリストの苦しみをクラスで復習してみましょう。キリストが経験された試練はどのようなものだったのでしょうか。その試練はどのように私たちの試練と似ており、またどのように違いますか。彼がこれらの困難に耐えられた秘訣を知ることは、試練の中にある私たちにどのように助けとなりますか。**

❸ **悲しみや痛みの中であなたを支える聖書の約束にはどのようなものがありますか。それらを書き出し、クラスで分かち合いましょう。**

❹ **今期の学びであなたの心に留まった文章や今期の要点を書き出してみましょう。どのような疑問が解決され、どのような疑問はそのままですか。そのような複雑で難しい問題に向き合うために、どのように助け合えるでしょうか。**

イエスに会う日まで

エドゥアルドのバプテスマの直後、リカルド牧師は会衆に襲撃未遂事件のことを説明し、ルイス医師を前方に招いて話をするように促しました。暴漢を診察したルイスは、教会にはよく来ていたものの、イエスに従う決心はしていませんでした。「今日までキリストとサタンの大争闘がどんなものかを理解していませんでした」と、彼は声を震わせながら話し始めました。「私はここでそれを目撃しました。最悪の事態にならなかったことを感謝し、主をほめたたえます。まさしく神の力です」。彼は泣き出しました。「暴漢の脈拍を測りましたが、循環器専門医として、これほど異常なものは経験がありません。普通の人間だったら生きていられるはずがないくらい速いものでした」。この体験によってルイス医師の人生は変えられ、彼はバプテスマを受ける決心をしました。ナイフを使った犯人は、以前から悪霊に悩まされていたとわかりました。牧師と聖書を学ぶようになって数か月後、悪霊は去って行きました。エドゥアルドのバプテスマがきっかけで、少なくとも2人の魂がイエスに導かれたのです。

バプテスマを受けることによって、サタンに対するキリストの勝利が自分のものになるとエドゥアルドが信じていたため、悪魔はそれを必死で防ごうとしていたのでしょう。しかし、ついに悪霊たちは沈黙しました。

今、一家は平和に包まれています。オリベイラは教会の執事で、今でも聖歌隊で歌っています。ジュニオールは17歳で、高校を卒業しました。43歳になったエドゥアルドは、ブラジル中の教会で自分の身に起こった驚くべき話をし、それを聞いた多くの人がイエスに人生をささげる決心をしました。エドゥアルドがイエスに従うことを決心したコアーリでは、16人がキリストに心をささげました。

エドゥアルドは、自分の物語が人々の心を変えたのではなく、聖霊が変えたと信じています。「確かに私の体験は衝撃的ですが、彼らに話をしているうちに、聖霊が彼らの心に働きかけているのがわかります」と、彼は言います。

エドゥアルドは、イエスと直接会う日を楽しみにしています。「主が私を見放さないように祈っています。また、私が主を見放さないようにも祈ります。最後まで忠実であり続け、忍耐強くあるように祈ります。私は、主にお会いしたいのです。それが私の希望です」（アンドリュー・マクチェスニー）